

日本動物考古学会の研究発表を一般公開します

千葉市では、特別史跡加曽利貝塚を中心に縄文文化と貝塚の性格を究明し、調査研究成果を世界に向けて発信していく拠点となることを目指しています。

このたび、貝塚など動物考古学の研究発表を市内で開催し、一般公開しますので、お知らせします。

貝塚では、酸性の土壌が貝殻のアルカリ成分で中和されるため、動物の骨やその加工品などが良好な状態で保存されています。縄文時代のタイムカプセルである「貝塚」の最新の研究を知るまたとないチャンスです。

1 日本動物考古学会の概要

「動物考古学」は、遺跡から出土する動物遺体（貝や骨など）から人と動物の関わりの歴史を解明する考古学の一分野です。

「日本動物考古学会」は、動物考古学と関連各分野に関わる諸問題の解明やその発展と普及に寄与することを目的とし、平成5年に発足しました。毎年、会員が研究発表を行う大会を開催する他、学術雑誌『動物考古学』の刊行などを行っています。

今回の千葉大会は、縄文貝塚文化調査研究の推進や魅力向上等に寄与するものとして、千葉市教育委員会と共催で、実施するものです。

2 開催日時

令和元年6月15日（土） 13：00～16：50（開場12：00）

3 場所

千葉市生涯学習センター 2階ホール（中央区弁天3-7-7）

4 定員

300人

5 申込方法等

当日受付（事前申込不要）、参加費無料

6 取材申込等

取材をご希望される場合、前日の16：00までに文化財課（電話245-5963）へご連絡ください。



昨年度開催の様子（岩手県宮古市）

7 プログラム

別紙のとおり

【参考】

日本動物考古学会と加曽利貝塚の関わり

日本動物考古学会は、ヒトと動物の関わりの歴史を考古学の立場から探究する研究者による全国的な研究組織である。特別史跡加曽利貝塚の総括報告書刊行で動物遺体の分析・執筆を分担した研究者や、平成29年から実施している発掘調査でも調査・研究方法の指導を仰ぎ、分析を依頼する予定の研究者が入会している。今後、本市が加曽利貝塚で目指している縄文文化の解明や貝塚研究の推進にあたり、調査・分析での連携など、重要な役割を担う学会である。

○プログラム（敬称略）

時間	発表タイトル等	発表者等
13:00～13:10	開会の辞	千葉市教育委員会 日本動物考古学会
研究発表 A		
13:10～13:30 A1	「群馬県居家以岩陰遺跡（2017年度）における縄文時代早期の動物利用」	やまざききょうみ・くろずみたいじ 山崎京美・黒住耐二 ・江田真毅・谷口康浩
13:30～13:50 A2	「さいたま市真福寺貝塚調査の最新の動向—動物資源利用に関する予察的報告—」	さかもとたくみ・といずみたけじ 坂本匠・樋泉岳二 ・吉岡卓真
13:50～14:10 A3	「三浦半島・白石洞穴遺跡出土の貝製品—特にタカラガイについて—」	黒住耐二
休憩（20分）		
研究発表 B		
14:30～14:50 B1	「とりかけにしがいづかの動物遺体からみた縄文早期初頭の動物資源利用と古環境」	樋泉岳二・にしもとよひろ 樋泉岳二・西本豊弘 ・黒住耐二・白崎智隆 ・早坂仁敬・畑山智史
14:50～15:10 B2	「縄文早期低地性貝塚の調査成果—千葉県市川市雷下遺跡—」	はつとりさとし 服部智至
15:10～15:30 B3	「とびのだいがいづかの飛ノ台貝塚出土の動物形土製品の再検討」	畑山智史・かねこひろまさ 畑山智史・金子浩昌
休憩（20分）		
研究発表 C		
15:50～16:10 C1	「房総の狩猟拠点と九十九里の大規模貝層—東金市・大網白里市養安寺遺跡—」	おがわけいちろう・にしのみさと 小川慶一郎・西野雅人 ・服部智至
16:10～16:30 C2	「貝塚の貝から社会が見える—都川・村田川流域の中期大型貝塚の成立と消滅—」	西野雅人
16:30～16:50 C3	「古代房総における貝類利用の実態」	やまざきたけし 山崎健